

# 公共交通メールマガジン

平成25年8月

第23号

編集

国土交通省総合政策局

公共交通政策部

平素より、当メールマガジンを御愛読いただきありがとうございます。  
暑さもだいぶ和らぎ、過ごしやすい季節になってまいりましたが、読者の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。  
お手隙の際に本メールマガジンをご覧いただければ幸いです。  
8月配信のメールマガジンは以下の内容でお送りいたします。

## ◎目次

- ご挨拶（国土交通省総合政策局公共交通政策部長 藤井直樹）
- 第20回「鉄道の日」における特別イベントについて（鉄道局総務課）
- 「ミシュラン・グリーンライナー」運行開始 他 兵庫県豊岡市の取り組みご紹介（近畿運輸局）
- イベント情報：「エコ交通講演会」の開催（美の国あきたエコ交通推進協議会）
- 「第11回全国バスマップサミット in 高松」を開催します。（“ぐるっと高松”公共交通を育てる会）
- 編集後記

## ○ご挨拶

国土交通省総合政策局公共交通政策部長  
藤井直樹

8月1日付で総合政策局公共交通政策部長に着任しました藤井直樹です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

「公共交通政策」というと非常に間口が広がりますが、このメールマガジンは地域交通に関わりのある方々を中心にお送りしているとのことですので、主にその分野について述べてみたいと思います。

平成23年9月から1年間、同じ局の政策課長として、国土交通省全体の重点政策取りまとめに当たり、その内容は、「持続可能で活力ある国土・地域づくり」というコンセプトの下に政府全体の成長戦略にも盛り込まれました。その議論を進める中で、少子高齢化・人口減少が特に地方部に大きな影響を与えることが認識され、それに対する処方箋として、公共交通が商業・医療等の機能集積地区と居住地区をしっかりと結ぶことにより、コンパクトシティ化を実現することが必要ではないかという方向性が政策のひとつの柱として浮かび上がってきたことが、鮮明に記憶に残っています。

その後、前職の官房審議官（鉄道局担当）では、中小の地方民鉄の維持・活性化方策が政策課題のひとつでした。このテーマについては、「たま駅長」の和歌山電鉄など、既にいくつかの有名な取り組みがありますが、1年半後に開通を予定する北陸新幹線との接続により観光客の取込みを狙ったり、線路脇の大型商業施設に直結する新駅を整備したりする前向きな動きに対して、国としてもできる限りの資金的な支援を行いました。一方、事業の存続のために上下分離方式を採用するケースも増えてきて

おり、老朽化した車両の更新も含め、事業の維持をどう図るかという問題に多くの地方鉄道が直面していることを実感しました。

このように、私のささやかな経験からも、地域交通に関する課題は、世の中の大きな流れの中で以前にも増して重要に、かつ多面的になってきているように思われます。公共交通政策部では、地域輸送にかかわる様々な交通モードに広く目配りをしつつ、地域にとって交通が果たすべき役割は何かという視点を忘れずに、一つ一つの問題に取り組んでいきたいと考えています。

その際、特に2つ心がけたいと思っていることがあります。

ひとつは、「前向きに、積極的に」ということです。乗客数が減る、経営が厳しいといった問題に直面していることは間違いありませんが、BRT や自転車など、従来の枠組みではとらえきれていない交通輸送手段や、IC や省エネに関わる最新の技術を、どのように地域交通の活性化に活かすことができるかということ、を、しっかり考えていきたいと思っています。

もうひとつは、「連携」ということです。冒頭申し上げたとおり、地域交通を語る際に、まちづくりの視点は欠かせません。さらに、地域交通は、事業を経営する方々と、国、地域の自治体、NPO、住民その他の関係者の方々とのコラボレーションの上に成り立っています。私たちは、そのプレイヤーの一員として、多くの関係者の方々の話を聞き、お互いのリソースを持ち寄った上で、共通の目標の実現に向かって進んでいきたいと思えます。できる限り数多くの地域を訪問させていただき、それぞれの抱える事情や問題点を把握したいと考えています。また、東京にお越しの際お時間があれば、是非公共交通政策部にお立ち寄りください。地域の皆様のご意見、ご要望をしっかりと受けとめ、実際に役立つ政策づくりを進めていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## ○第20回「鉄道の日」における特別イベントについて（鉄道局総務課）

日本の鉄道は、明治5年（1872年）10月14日に新橋～横浜間で開業して以来、身近で便利な交通機関として親しまれています。

平成6年、その誕生と発展を記念し、この10月14日を「鉄道の日」と定め、今後も鉄道が国民に広く愛され、その役割についての理解と関心がより深まることを願う日として、毎年多彩な行事を全国各地で実施しております。

今年は「鉄道の日」の制定から20周年という節目の年であることから、これまでの恒例行事にくわえ、特別なイベントが全国で計画されています。まだ検討中のものもありますが、簡単にご紹介したいと思います。

### ・鉄道フェスティバル

10月12日（土）・13日（日）の2日間、今年は東京・日比谷公園に戻り鉄道フェスティバルを開催します。オープニングセレモニーでは、20年間「鉄道の日」のロゴマークとして頑張ってきた「テッピー」が初めてガールフレンドをお披露目してくれる予定です。

※現在、国土交通省のホームページでは、このガールフレンドのニックネームを募集していますので、素敵なニックネームを思いつきの方はぜひご応募ください（9月11日（水）まで）。

また、全国の駅長さんや鉄道会社の「ゆるきゃら」にもセレモニーに参加していただき、盛り上がるようなイベントを計画中です。

#### ・「鉄道の日」記念式典・祝賀会の開催

10月15日（火）に、「鉄道の日」記念式典（鉄道関係功労者への国土交通大臣表彰等）【主催：国土交通省】、記念祝賀会【主催：「鉄道の日」実行委員会】を開催します。特に、記念式典では、第20回目という節目を記念して皇室にご臨席いただく予定です。

#### ・記念切手「鉄道シリーズ」の発行

日本郵便(株)では、第20回「鉄道の日」の記念事業として、鉄道に関する記念切手を10月11日（金）に発行することとしており、「鉄道の日」実行委員会も協力しております。

先日、日本郵便(株)より切手のデザインが発表されましたが、作成にあたっては鉄道事業者からの協力もあり、第20回という節目に相応しい記念的なデザインとなりました。

これら以外にも、多くのイベントが企画されています。

また、9つの地方運輸局管内毎に組織された「鉄道の日」地方実行委員会でも、10月14日の鉄道の日を中心に、親子ツアー、施設見学等の参加型イベントをはじめ、それぞれの地元で根ざした多彩なイベントを予定しています。その他、各鉄道事業者による「鉄道の日」記念イベントも多数予定されており、全国規模で『鉄道』への関心が高まるよう努めていきます。

ぜひ今年の10月はお近くのイベント会場へお出かけ頂き、「鉄道」に触れて頂ければと思います。（イベントの詳細については、今後、駅のポスターや鉄道局及び関係会社等のホームページにてお知らせする予定です。）

### ○「ミシュラン・グリーンライナー」運行開始 他 兵庫県豊岡市の取り組みご紹介（近畿運輸局）

#### ・「ミシュラン・グリーンライナー」運行開始

兵庫県豊岡市の城崎温泉が、旅行ガイドブック「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン（フランス語版）」改訂第3版に二つ星（★★）（近くにいれば寄り道をして訪れるべき場所の意）で掲載されました。これを記念して全但バス(株)の特急バス「城崎大阪線（城崎温泉—大阪阪急三番街）」の1往復を、ラッピング車両「ミシュラン・グリーンライナー」として7月10日から運行を開始しました。

豊岡市は城崎温泉が「ミシュラン・グリーンガイド」に掲載されたことを広くPRし、城崎温泉をはじめ豊岡市内各地への来訪を促すため、全但バスの協力によりラッピングバスを運行することになったものです。

初便運行日の7月10日には、運行開始記念セレモニーがJR城崎温泉駅前で開催され、ラッピングバスがお披露目されました。今後、外国人旅行者の増加が見込まれることから、こうした取り組みを通じて、地元の経済と公共交通の活性化が期待されます。



#### ・自動車教習所から講師を招いて「チクタク」安全運転講習会

「チクタク」とは「地区の乗合タクシー」の略称で、交通不便地域などでの移動手段を確保するため、地元関係者で組織する協議会が主体となって運行する自家用有償運送です。現在、奥山、ひぼこ（いずれも豊岡市出石町）、資母（同市但東町）の3地域で運行しています。

運行ダイヤや停留所も地域で決めており、「地域の地域による地域のための公共交通」として、豊岡市の支援を受け運行しています。利用者からは「顔がわかるので安心、乗車時探してもらえる。」「これまでは家族や知人に気兼ねしながら送迎を頼んでいたのがありがたい。」と好評で、高齢者の外出機会の拡大や地域コミュニティの強化につながっています。

一方で、今後も運行維持するためには安全運行の確保は必須であり、豊岡市では「チクタク」のボランティア運転者に、運転技術の確認と安全運転への意識を高めてもらうことを目的として、豊岡自動車教習所から講師を招き、安全運転についての講義と、実際の運行ルートを利用した運転実技を行う安全運転講習会を毎年実施しています。運転者は、利用者が「チクタク」を快適に利用するためのアドバイスを講師から受け、改めて自分の運転を見直す機会としています。

#### ○イベント情報:「エコ交通講演会」の開催(美の国あきたエコ交通推進協議会)

当協議会では、秋田県内の公共交通の利活用及び自動車交通における地球温暖化対策の推進を図るため、エコ交通に対する意識啓蒙活動を実施し、地球温暖化防止への取組を紹介する講演会を開催します。

今回は、国土交通省東北運輸局交通環境部環境課長 嶋中達也 氏を迎え、「環境対策とエコ通勤」についての基調講演と、秋北バス株式会社取締役事業管理部長 加賀卓也 氏からの「環境に優しい路線バスの新たな利用促進策の取り組み」についての事例発表となります。詳細は次のとおりです。

- ◆ 日時 平成25年9月24日(火)午後1時30分～3時30分
- ◆ 場所 秋田地方総合庁舎6階 大会議室  
秋田市山王四丁目1-2
- ◆ 参加申込 平成25年9月13日(金)まで  
メールまたはFAXで(事務局 秋田県交通政策課内)

へお申し込みください。

E-mail : koutsuuseisakuka@pref.akita.lg.jp

FAX: 018-860-3876

電話: 018-860-1283

ホームページは、秋田県のホームページ

「美の国あきたネット」をご覧ください。

美の国あきたホーム>組織別案内>観光文化スポーツ部>  
交通政策課>「エコ交通講演会」の開催について

<http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1376557673517/index.html>

## ○「第11回全国バスマップサミット in 高松」を開催します。(“ぐるっと高松” 公共交通を育てる会)

“ぐるっと高松”公共交通を育てる会は、“公共交通が市民の足”であって欲しいとの思いで、利用者として公共交通の利用しやすい環境づくりについて考え、提言し、様々な活動をしてまいりました。今回、その一環として、市民が必要としている交通マップを作成している市民団体や、公共交通に関する活動をしている人たちと、事業者や行政の垣根を越えて集まる「全国バスマップサミット」を、高松で開催することとなりました。

サミットでは「つなげる公共交通」をテーマに、バスマップから見えてくる交通ネットワークの問題、ネットワークに必要な結節点の問題など、公共交通の利便性向上に向けての課題を考えます。公共交通に関する取り組みをしている全国の皆さんと交流し、連携することによって、公共交通の維持改善に向けた取り組みを全国的な動きに繋げることができればと思っています。

多くの方にご参加いただき、四国で初めて開催される「全国バスマップサミット in 高松」が、実のあるものにしたいと考えております。

### 「全国バスマップサミット in 高松」

日時: 9月15日(日) 13:30~17:30 シンポジウム  
19:00~21:00 交流会(国際ホテル)  
9月16日(祝) 9:30~12:30 分科会

場所: 高松市丸亀町商店街 丸亀町レッツホール 4F (高松市丸亀町壱番街)

定員: 120人

参加費: 1,000円 (交流会参加費希望者は別途: 5,000円)

内容:

- ①基調講演「つなげる公共交通 ~コモビリティ~」  
大阪大学大学院教授 土井健司
- ②講演:「つなげる公共交通を目指した交通結節点のあり方」  
東京大学生産技術研究所 先進モビリティ研究センター准教授 牧野浩志
- ③「つなげる公共交通“なるほどなあ”事例紹介」 平原大樹
- ④大学院生による研究発表
- ⑤海外事例紹介:「つなげる公共交通~台湾・台南市の事例紹介」  
大阪大学工学部 頼均章

分科会: 第一部会 新型公共交通機関あれこれ

第二部会 高齢社会に求められる地域交通について

第三部会 観光に活かすバスマップづくり

問い合わせ先：“ぐるっと高松”公共交通を育てる会(宮本)

電話・FAX：087-849-0920

またはE-mail：[busmap.h25@gmail.com](mailto:busmap.h25@gmail.com)

申し込み方法：団体名、住所、氏名、電話/FAX番号、交流会&分科会の希望を明記しFAXまたは<http://grutto.g.hatena.ne.jp/>

## ○編集後記

いつもご愛読いただきありがとうございます。国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課の中村です。

先日、大学時代の友人と伊豆大島へ行ってまいりました。同じ東京都とはいえ遠い印象があったのですが、いざ高速船に乗ってみると2時間もせずに着いてしまうのですね。伊豆大島は時間の流れが本当にゆったりとしていて、都心からすぐの場所にこんな癒しスポットがあったなんて・・・と感動しました。移動手段はやはり車がメインで、バスもなかなか来ないですが、たまにはバスの待ち時間さえも楽しめる、こんな贅沢な時間の使い方も良いものだと感じました。

ちなみに、伊豆大島では人生初のダイビングに挑戦し、溺れかけましたが(笑)、めげずにまたチャレンジしたいと思います。ダイビングと離島の交通事情の見学の両方を目的とした離島巡りなんてのも良いですね。おすすめの場所があれば、ぜひ教えてください^^

★全国に共有したい情報等ございましたら、下記問い合わせ先または最寄りの地方運輸局企画観光部交通企画課まで御連絡ください。

### 【問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 中村

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3(中央合同庁舎 3号館 3階)

TEL : 03-5253-8274 (直通) FAX : 03-5253-1513

E-mail : [koutukeikaku\\_joho@mlit.go.jp](mailto:koutukeikaku_joho@mlit.go.jp)

国土交通省HP(情報発信のページ) :

[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei\\_transport\\_tk\\_000039.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html)

国土交通省総合政策局公共交通政策部ゆるきゃら のりたろう



